

令和5年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 介護老人福祉施設 事業計画書・事業報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	今村	高野

理念 すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
---	--

令和4年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和4年度 事業所の振り返り（評価）
1. 新型コロナウイルス感染症が発症（ご利用者・スタッフ）ためデイサービス1週間、ショートスティサービス2ヶ月間受け入れ中止とした。そのため、ショートスティサービスの収入が約600万円減となる。（デイサービスは1000万円増） 2. 応募数が昨年同様維持できているが（約60件）離職率が高い状況が続く（r5.3時点 離職率22%） 3. キャリア形成の意識が低いいためか資格取得（研修受講・受験）の姿勢がみられない 4. ICT化・介護機器導入が進み、業務効率化及び介護負担軽減へと繋がった。	1. ICT（絆）の日誌・ケース記録を実施し、記録が効率的になった。 2. 薬関係の事故報告書の件数が前年度より減少 3. 中途採用の職員が定着しない為、指導方法の再検討や働きやすい環境作りの為の面談実施が必要。 4. 業務内容を見直し余暇活動時間を増やしたが、上半期のみになってしまった。 5. 介護スキルのレベルアップを実施することが出来なかった。

法人目標/『強み』を伸ばし、サービス(技術)向上・キャリア形成に活かす。

介護老人福祉施設 事業所 事業目標	1) 新年度・中途採用者が定着して就労することができる【歓喜・革新】 2) 地域交流（慰問・クラブ活動・ボランティア活動等）の実施【開花】
具体的な達成（目標）数値	1) ①独り立ち後にアンケート調査を実施し、前向きな回答が得られていること。※アンケート調査内容から改善策を検討 ②OJTの手順・内容を見直し、統一した指導を全員が説明・実施できる 2) ①季節毎にイベントを実施（年4回）②クラブ活動の実施（決定後は毎月）③昨年度より地域イベントへの参加者の増加

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 1.2)OJTの見直し 3) ②開催準備（ボラ募集・実施時のルール作成）	1. 2) OJT見直しを行い新人職員に分かりやすい（未経験者）よう修正し動画OJTも作成実施した。 3) ルールの見直しと検討を行い修正し会議で確認作業を行へた。	7月 1.2)介護技術の確認	1. 2) 先月同様に利用者だけでなくICT関連の理解と操作について確認。1部理解出来ていないことがあったため未然に確認できたことは良かった。
5月 1.2)OJTの見直し 3) ①イベント実施・③美化活動	1. 2) OJTの中で動画撮影について見直しを行い1部修正。直近で入職した職員（2年目以降）に確認して頂くことで分かりやすい動画にできたことは評価できる。	8月 1.2)介護技術の確認 3) ①イベント実施	1. 2) 先月理解できていない部分の確認を実施。分からないまま進めるのではなく着実に前にゆっくりと進めるようにしていった。今後も同様の行い方を実施していく。
6月 1.2)介護技術の確認 3) ②クラブ活動の実施	1. 2) 未経験、経験者の技術を各リーダーが行い悩み事や困りごとを確認する場を設けた。また面談後のアンケートも実施した。 3) クラブ活動の計画を作成。予定より出遅れたため準備が遅くなっていた。	9月 1)②入職者への聞き取り 2) 指導方法の評価	1) 実際にOJTについて和からやすかったか分かりにくい部分はないか確認し修正を行った。次回の活用できるようにした。2) 移乗方法を確認。結果を本人に伝えた。本人より自分のペースで出来たとのことで離職になっていないことで現時点では評価できる。
上半期評価	事業目標である1)については月間計画通り実行できているが2)については感染症と職員指導に力を入れすぎた影響から実行に前期で出来なかった。後期に向けては1)の実行を継続して行うとともに2)の実行を行えるように月間計画通り行えるようにしていく。新人に関しては前期で離職したスタッフは0人であることは評価したい。		
10月 1.2) 評価後に計画	1. 2) 上半期で評価したように事業目標である地域交流の計画、実行が出来ていないために定着に向けての取り組みを行うと共に地域との交流もまずは計画を行っていきけるようにしていく。	1月 2) 介護技術の評価 3) ①イベント実施	2) 中途採用者の介護技術の確認面談を実施。技術に問題なし。次回2ヶ月後に再度実施とし今回の面談評価を行い次回に活かせるようにした。 3) イベントではないが家族会を実施。
11月 3) ①イベント実施 ③美化活動	①流しそうめんを行い近隣の方をお誘いし開かれた施設として、まずは1歩を踏みだせた。②特養スタッフ7名参加。新人職員も参加することができた。	2月 中途採用の面談、アンケート実施	事前に確認したいことを伝え面談の際の返答を準備して頂いて面談を実施した。事前に面談内容を伝えたことで回答が明確で分かりやすかった。
12月 クラブ活動の再開	まずは以前行っていたクラブ活動を再開することを計画たてる。先生の再活動再開についての確認を行い再開に向け計画をたて。同月から再開できた。	3月 面談方法の評価と改善	1年間の面談方法での改善を会議で実施。次年度への面談方法について改善と推奨事項を明確にできた。外出の計画を年度終わりだが計画を立てれた。
下半期評価	地域との関わり貢献活動が前期では行えなかった為に後期では計画をたて実行することができたのは評価できるが回数や交流の場としては、もう少し計画を考え実施できた。1年間で終わるのではなく来年度も継続事項として実施していけるようにしたい。		

実績・達成度（目標との比較）	1) 定着に向け面談や介護技術の確認、OJTの変更を行った。OJTも文章だけでなく動画も取り入れることで新人、未経験に分かりやすいように作成したことで面談の際に「分かりやすかった」「実際に真似してできた」等の答えがもらえたことは評価できる。また今年度入職し直ぐに1カ月以内で辞める方は1名いたが他の方は1年間辞めずに定着できた。 2) 地域交流としては美香活動や流しそうめん等、今まで接する機会が少ない部分を改善し寒川ホームを知って頂く取り組みは行えたが計画して実行したのは少なかったため次年度は更に回数を増やし実施していく必要があるため達成できたとは評価できない。
-----------------------	---

令和5年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 短期入所生活介護 事業計画書・事業報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
		石黒	石黒

理念 すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
---	--

令和4年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和4年度 事業所の振り返り（評価）
1. 新型コロナウイルス感染症が発症（ご利用者・スタッフ）ためデイサービス1週間、ショートステイサービス2ヶ月間受け入れ中止とした。そのため、ショートステイサービスの収入が約600万円減となる。（デイサービスは1,000万円増） 2. 応募数が昨年同様維持できているが（約60件）離職率が高い状況が続く（r5.3時点 離職率22%） 3. キャリア形成の意識が低いためか資格取得（研修受講・受験）の姿勢がみられない。 4. ICT化・介護機器導入が進み、業務効率化及び介護負担軽減へと繋がった。	・ 営業中止月以外は稼働率100%以上を保つことができた。 ・ お客様の荷物預かり制度、荷物確認アプリ導入に伴い業務効率化を図れた。 ・ キャンセル待ちのお客様が少なかった影響からキャンセルが出た際の空床を埋めることが出来なかった。 ・ 日曜日の受け入れを開始したが施設送迎ではなく家族送迎限定にした結果、当初の予測より日曜利用のお客様は少なかった。

法人目標 / 『強み』を伸ばし、サービス(技術)向上・キャリア形成に活かす。

短期入所生活介護 事業目標	1. 業務効率化を図れた荷物管理で忘れ物や誤りが発生しないようにする。【歓喜・革新】 2. 当事業所独自の取り組みを積極的に発信して利用を増やす。【歓喜・革新・開花】
具体的な達成（目標）数値	1. 他グループの職員でも荷物管理を徹底して忘れ物や誤りの件数が前月より増加しない。 2. 現在までの取り組みと需要を分析してそのニーズの利用者を倍増する。

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 1. 動態表見直し 2. 洗い出し	1. 申し送りで荷物の確認を動態表に位置付けた。 2. 荷物の預かりは保管の広さやアプリへの未登録で見直した。	7月 1. リストの内容把握・改善	1. 職員に周知されず忘れ物しても記入はされず。毎月退所者数が50名前後を考慮すると数名の紛失なら管理できていると判断。
5月 1. 荷物管理 2. 抽出・分析	1. 忘れ物は毎月発生。リストを作成して早期発見に繋がった。 2. 荷物の預かりにも課題があり新たに利用者は拡大せず。	8月 1. リストの保管場所を変更	1. 忘れ物箱とリストと一緒に保管したが、リストは使用されず引継ノート等普段使用する手段で周知された。
6月 現在の進捗状況	1. 忘れ物や誤りは解消されず月2～3件発生した。 2. 管理者変更に伴い外部との関係構築に注力した。	9月 現在の進捗状況	忘れ物が発生した場合の対応策ばかり検討してしまった。 契約時に必要最低限の荷物で案内した。
上半期評価	荷物忘れは多発しなかったが一部発見できず終結してしまった。事業所会議では現在の課題と解決策を検討して進捗している。 介護老人福祉施設事業所の事業計画も並行して取り組むことで徹底できなかった。下半期は介護老人福祉施設事業所の事業計画に注力する。		
10月		1月	
11月		2月	
12月		3月	
下半期評価			

実績・達成度（目標との比較）	事業計画を立案した段階で抽象的になってしまい、月間の取り組みを職員全員に浸透できず意図が伝わっていなかった。 途中で計画を見直し立て直す必要はあったが、現状の業務を遂行することに手一杯となり事業計画の意識は低下した。 大曲グループは介護老人福祉施設と短期入所生活介護を併設していることから2事業計画への取り組みのため達成できる計画を立案する。
-----------------------	---

令和5年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 通所介護 事業計画書・事業報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	植田	植田

理念 すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
--	---

令和4年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和4年度 事業所の振り返り（評価）
1. 新型コロナウイルス感染症が発症(ご利用者・スタッフ)ためデイサービス1週間、ショートステイサービス2ヶ月間受け入れ中止とした。そのため、ショートステイサービスの収入が約600万円減となる。(デイサービスは1,000万円増) 2. 応募数が昨年同様維持できているが(約60件)離職率が高い状況が続く(r5.3時点 離職率22%) 3. キャリア形成の意識が低いいためか資格取得(研修受講・受験)の姿勢がみられない。 4. ICT化・介護機器導入が進み、業務効率化及び介護負担軽減へと繋がった。	1. 前年と比較し稼働率7%、平均介護度0.23上昇。 2. 利用人数の増加に対応して業務・書類の見直しを行い一部効率化を実現。動態に見直しの余地があり課題。 3. レク考案を一部の職員に任せず、事業所全体で行う。強み『楽しい』に近づけた。 4. 退職者5名あり。定着が課題。デイ経験が浅い職員が増えた。送迎やレク準備等の教育が必要。 5. 勤務期間や勤務時間が長い職員だけでなく、新人職員や短時間勤務職員を巻き込んで運営して行く事が課題。 6. コロナ発生時にご家族・ケアマネへの連絡手段が電話のみと情報伝達手段の改善が必要。

法人目標 / 『強み』を伸ばし、サービス(技術)向上・キャリア形成に活かす。

通所介護 事業目標	1. 楽しみを共有し合う【歓喜・開花】 2. 学ぶ機会をつくる【歓喜・革新】 3. 時代に即した情報伝達手段の確立
具体的な達成（目標）数値	1. 『楽しみがある』を利用者だけでなく、スタッフ同士・ボランティアや慰問者（地域住民）・ご家族・ケアマネ等と共有する事で強みの周知を図り稼働率Upに結び付ける。 ①新規ボラ・慰問の定着（5件以上） ②広報誌・SNSの活用（月2件以上） ③家族会（デイ体験会）の開催 ④離職0 の内3/4以上を達成。 2. ①事業所内研修の担当を担う ②勉強レクの担当を担う ③施設内研修講師を管理者と共に担う 左記の取り組みを常勤職員全員が最低1つは実施。 3. ①ご家族・ケアマネとの電話以外の連絡方法の確立 ②ケアプランデータ連携を検討

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 事業所会議 ボラ仕事の抽出	事業所会議は開催せず。（3月に実施している為）個人面談を実施。今年度の取り組みを再度職員1人1人に説明した。	7月 勉強レク（熱中症） お客様アンケート	職員の紹介により、慰問1件新規獲得 1年ぶりに広報誌を作成。利用者・家族・ケアマネへ配布。
5月 ボラセンへ新規ボラ・慰問依頼 HP・SNSを活用して慰問募集	ボラセンへ求めているボラを具体的に伝え相談。→2名の新たなボランティアを獲得（整容・将棋） OJT見直し・動態見直しを実施→業務の効率化・生産性のUPを図る。	8月 事業所会議 事業所内研修	デイサービスのインスタグラム運用開始。8月で10件投稿。 連絡ノートに変わる情報伝達手段として絆を検討（9月に試用予定）
6月 家族へボラ・慰問募集 事業所会議 事業所内研修	コロナ前に関わっていた慰問者へ連絡し慰問再開（2件） 小谷老人会に相談し新規の慰問2件獲得	9月 事業計画進捗調整	一之宮北フレンズに声を掛け、新規慰問を募る（10月以降に3件新規慰問獲得） 新たな情報手段としてLINEを検討（業者との打合せ実施）
上半期評価	慰問・ボランティアについては、計画通りに新規獲得が行えている。インスタグラムの開始行えた。不特定多数への投稿であり稼働率への結びつきは不明。直接家族・ケアマネに届く広報誌は1件と計画した数値に届かず。職員の入替わり、OJT進捗状況を踏まえて具体的な目標の2を見直し変更。【事業所内で担当業務を持ちデイサービスの運営に関りながら、必要な技術・知識を取得する】に変更。評価方法は要検討。		
10月 事業所会議 事業所内研修	事業所会議を行い、後期目標や取り組みを再共有 レク・壁飾り・物品発注等、一部の職員で対応していた業務を担当制に変更開始	1月 勉強レク（インフル）	食事量・バイタルの記録を絆に移行
11月 家族会（デイ体験会）の開催	稼働率UPに向けてデイInstagramの告知をケアマネに実施しデイサービスの魅力発信 接遇についての勉強会を実施	2月 事業所会議	スタッフ・利用者に感染症が流行したが、早い対応が行え昨年度のような営業休止を防ぐことができた 稼働率も維持できた
12月 事業所会議 事業所内研修	居宅事業所主導の地域交流会に参加し小谷老人会のメンバーへデイの魅力伝える事ができた。合わせて慰問・ボラ募集も行った 入浴の記録を絆に移行	3月 お客様アンケート②	事業所会議を開催し、本年度の達成できた事・課題、次年度の目標を共有 歩行介助についての勉強会を開催しケアの統一を図った
下半期評価	新人職員のOJT完遂より各スタッフが担当業務を請け負いながら、デイサービス運営の理解を深めた。 記録のデジタル化を順次実施できており、手書き記録・転記作業をなくし業務の効率化を進める事ができた。		

実績・達成度（目標との比較）	寒川ホームデイの雰囲気や魅力を知ってもらおう事で新規利用者だけでなく新たな慰問者・ボランティアを増やす事に成功した。慰問・ボラに関しては、単発ではなく事からも目標が達成できたと評価します。 時代に即した連絡手段は一部ケアマネやご家族はメールに移行できたが、相手の理解度もある為、計画通りには進んでいない。今後も継続していく必要あり。 R4年12月から入職者7名が全員定着できた事（1名雇用形態変更）・経験が浅い職員が多くとともに事故や苦情がなく運営できた事は、事業所全体としての教育や学ぶ姿勢の成果として評価
-----------------------	--

令和5年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 訪問介護 事業計画書・事業報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	船山	船山

理念 すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
--	---

令和4年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和4年度 事業所の振り返り（評価）
1. 新型コロナウイルス感染症が発症（ご利用者・スタッフ）ためデイサービス1週間、ショートステイサービス2ヶ月間受け入れ中止とした。そのため、ショートステイサービスの収入が約600万円減となる。（デイサービスは1,000万円増） 2. 応募数が昨年同様維持できているが（約60件）離職率が高い状況が続く（r5.3時点 離職率22%） 3. キャリア形成の意識が低いいためか資格取得（研修受講・受験）の姿勢がみられない。 4. ICT化・介護機器導入が進み、業務効率化及び介護負担軽減へと繋がった。	1. 毎月の事業所会議は概ね開催できたが、会議内での個人・事業所の強みについての議論はできなかった。 2. ICT化：タブレット活用のイメージと現状の差を埋められず、直接的な業務効率化には繋がらなかった。 事業所会議：毎回概ね60分で開催（3回：75分、その他は60分）・平均出席率：74% 3. アセスメント能力・洞察力が上がる研修は、月1回の勉強会以外には開催することができなかった。 4. 積極的な情報発信に伴う新たなサービス提供が、年度終盤の12月以降になり複数件実現した。

法人目標 / 『強み』を伸ばし、サービス(技術)向上・キャリア形成に活かす。

訪問介護 事業目標	1. 一人ひとりの意識改革への取り組みにより、専門性を高めることを目指す【革新・開花】 2. 情報共有を強化し、ご利用者への取り組みにヘルパー全員で関わることで、事業所全体のレベルアップを図り、強み（困難事例を含む、あらゆるご利用者に対応する）へ繋げる【歓喜】
具体的な達成（目標）数値	1. 特定事業所加算の個別研修計画を主体的に立てる（テーマ1つ以上：1名） 2. アセスメント能力・洞察力の強化として、ヒヤリハット報告件数を増加を目指し、リスクマネジメントへ繋げる（月に1件以上：1名・年間：84件以上） 3. 新規ご利用者のサービス開始1ヶ月以内のサービス手順書内容の確認・見直しの実施（新規件数分）

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 待遇	「自分が利用者だったら」と想像しながら待遇について考えることができた	7月 低栄養	高齢期に注意したい栄養の問題について、改めて考えることができた
5月 食中毒	生活を支えるヘルパーとして、調理を行う以外の活動にも活用できる知識・予防法を押さえることができた	8月 口腔ケア	口腔ケアの目的や実際にケアを行う際のポイントを確認することができた
6月 脱水・熱中症	ヘルパーの役割を見直し、要因や日頃の予防策を確認することができた	9月 ルールや制度 <small>個別研修計画 進捗状況確認</small>	・日頃の業務の意味を理解すると、ヘルパーも利用者もトラブルの回避に繋がることを学ぶことができた ・上半期での個別研修の実施はなし
上半期評価	・個別研修計画は立案者は0名 ・ヒヤリハット件数の増加とはならなかった。また報告者に偏りもあった。 毎月・上半期：6回の事業所会議・勉強会を実施し、共有・検討・確認の継続に繋がった		
10月 認知症ケア	「伝わりやすい」「理解しやすい」声掛け・接し方のテクニックを動画も活用して学ぶことができた	1月 高齢者に多い疾病	高齢者がかかりやすい病気や症状のポイントを確認し、大事に至らないように日々の活動の中で気づきの力が重要だと気づけた
11月 感染症予防	「訪問時にウイルスを持ち込まない・受け取らない」をキーワードに、取るべき対策の見直しができる	2月 食事・調理 <small>(制限食・介護食の試食)</small>	利用者を取り巻く「食」の現状を確認しつつ、手軽にできる介護食づくりの工夫も学べた。市販の介護食の試食も行った
12月 緊急時対応	アクシデントが発生した際に適切に動けるように、ヘルパーができること、知っておきたいことを確認することができた	3月 福祉用具の理解 <small>個別研修計画 取組み結果確認</small>	・主な福祉用具について重要な視点をまなぶことができた ・7名全員が個別研修を実施することができた
下半期評価	・各自が主体的に立てた個別研修計画を実施することができた ・ヒヤリハット件数の増加とはならなかった。また報告者に偏りもあった 月・下半期：6回の事業所会議・勉強会を実施し、共有・検討・確認の継続に繋がった		

実績・達成度（目標との比較）	・情報共有に努め、強みとはなりつつあるが、事業所全体のレベルアップには繋がってはいない ・意識改革や専門性を高めることに取り組んだが、成果は出ていない。・個別研修計画は各自主体的に立てることができた。テーマを2つ実施できたヘルパーもあった ・ヒヤリハット件数の増加とはならなかった。また報告者に偏りもあった。（年間43件） ・新規ご利用者のサービス1ヶ月以内でのサービス手順書の確認・見直しは漏れなく実施できた。年間22件
-----------------------	---

令和5年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 居宅介護支援 事業計画書・事業報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	木藤	木藤

理念 すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針 1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
---	--

令和4年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和4年度 事業所の振り返り（評価）
1. 新型コロナウイルス感染症が発症(ご利用者・スタッフ)ためデイサービス1週間、ショートステイサービス2ヶ月間受け入れ中止とした。そのため、ショートステイサービスの収入が約600万円減となる。(デイサービスは1,000万円増) 2. 応募数が昨年同様維持できているが(約60件)離職率が高い状況が続く(r5.3時点 離職率22%) 3. キャリア形成の意識が低いためか資格取得(研修受講・受験)の姿勢がみられない。 4. ICT化・介護機器導入が進み、業務効率化及び介護負担軽減へと繋がった。	1. 事業目標自体が理解や浸透できず目標を事業所内で見直した。勉強会は月1～4回開催できた。回数は重ねたがその場限りで終結しないようにスキルアップできる手法を検討すると良い。 2. タブレットの活用を焦点に6月～12月で取り組めた。業務効率化や負担軽減までは得られず。職員が活用への抵抗が課題として発見する。定期書類を郵送からFAXへ切り替えたことで目標は達成した。 3. 2月に田端地区で地域交流会を実施できた。別の企画を検討したが初めての試みで進捗せず。今回法人への依頼だったが、事業所全体でできる地域貢献活動なら積極的に介入すると良い。

法人目標 / 『強み』を伸ばし、サービス(技術)向上・キャリア形成に活かす。

居宅介護支援 事業所 事業目標	①経験の長いケアマネ在籍という強みを活かし事業所内研修が充実していること【歓喜・革新】 ②地域貢献活動の立案・実施を行いキャリア形成に活かしていること【開花・革新】
具体的な達成（目標）数値	①事業所内勉強会(ICT化※への取り組みも含む)の開催【月1回以上・年12回以上】・事業所内勉強会の振り返り【実施月の翌月】 ②地域貢献活動の立案【偶数月・年6回】地域貢献活動の実施と事業所会議にてキャリア形成に活かしているかの確認【奇数月・年6回】 ※ケアプランデータ連携システム

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 勉強会 地域貢献活動の立案	週1回程度の勉強会(特定事業所会議)の実施 地域貢献活動についての話し合い	7月 勉強会・振り返り 地域貢献活動の実施	週1回程度の勉強会(特定事業所会議)の実施
5月 勉強会・振り返り 地域貢献活動の実施	週1回程度の勉強会(特定事業所会議)の実施 地域貢献活動の内容決定 田端高砂会より職員派遣の依頼受諾	8月 勉強会・振り返り 地域貢献活動の立案	他事業所(あい介護センター)との勉強会実施
6月 勉強会・振り返り 地域貢献活動の立案	週1回程度の勉強会(特定事業所会議)の実施 地域貢献活動の準備	9月 勉強会・振り返り 地域貢献活動の実施	週1回程度の勉強会(特定事業所会議)の実施 地域貢献活動の調整
上半期評価	勉強会は定期的に実施できているが、地域貢献活動は実施できていない。現段階では11月と2月に実施予定である。		
10月 勉強会・振り返り 地域貢献活動の立案	週1回程度の勉強会(特定事業所会議)の実施	1月 勉強会・振り返り 地域貢献活動の実施	地域貢献活動の振り返り 週1回程度の勉強会(特定事業所会議)の実施
11月 勉強会・振り返り 地域貢献活動の実施	週1回程度の勉強会(特定事業所会議)の実施	2月 勉強会・振り返り 地域貢献活動の立案	地域貢献活動の実施(田端高砂会定例会参加) 週1回程度の勉強会(特定事業所会議)の実施
12月 勉強会・振り返り 地域貢献活動の立案	地域貢献活動の実施(小谷パーククラブとの交流会) 週1回程度の勉強会(特定事業所会議)の実施	3月 勉強会・振り返り 地域貢献活動の実施	地域貢献活動の振り返り 週1回程度の勉強会(特定事業所会議)の実施
下半期評価	12月と2月に地域貢献活動として老人会との交流や研修等の実施を行えた。下半期勉強会は報告会が多くなってしまった。		

実績・達成度（目標との比較）	①事業所内勉強会として形式的に実施したものの、研修等の充実というより後期は特に報告会がメインとなってしまった。ICT化(ケアプランデータ連携システム)も進んでいない。 ②地域貢献活動・実施後の振り返りと確認は年2回の実施であった為、達成度33%
-----------------------	---